

【表紙】

| | |
|------------|--|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2023年8月8日 |
| 【四半期会計期間】 | 第120期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日） |
| 【会社名】 | 株式会社大林組 |
| 【英訳名】 | OBAYASHI CORPORATION |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 兼 CEO 蓮輪 賢治 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都港区港南2丁目15番2号 |
| 【電話番号】 | 03-5769-1017 |
| 【事務連絡者氏名】 | 経理部長 高田 佳明 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都港区港南2丁目15番2号 |
| 【電話番号】 | 03-5769-1017 |
| 【事務連絡者氏名】 | 経理部長 高田 佳明 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社大林組関東支店 （さいたま市中央区新都心11番地2） 株式会社大林組横浜支店 （横浜市神奈川区鶴屋町2丁目23番地2） 株式会社大林組名古屋支店 （名古屋市東区東桜1丁目10番19号） 株式会社大林組大阪本店 （大阪市中央区北浜3丁目5番29号） 株式会社大林組神戸支店 （神戸市中央区加納町4丁目4番17号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神2丁目14番2号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第119期 第1四半期 連結累計期間 | 第120期 第1四半期 連結累計期間 | 第119期 |
|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2022年4月1日 至 2022年6月30日 | 自 2023年4月1日 至 2023年6月30日 | 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 410,331 | 487,444 | 1,983,888 |
| 経常利益 (百万円) | 12,992 | 9,315 | 100,802 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円) | 11,279 | 6,591 | 77,671 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 23,358 | 45,715 | 74,244 |
| 純資産額 (百万円) | 1,000,051 | 1,066,290 | 1,035,881 |
| 総資産額 (百万円) | 2,470,878 | 2,700,819 | 2,609,929 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 15.73 | 9.19 | 108.34 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | — | — | — |
| 自己資本比率 (%) | 39.1 | 38.0 | 38.2 |

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社108社、関連会社27社で構成され、その主な事業内容は、建設事業（国内建築事業、海外建築事業、国内土木事業及び海外土木事業）及び不動産事業であり、さらに各々に付帯する事業を行っている。

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績

当第1四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年6月30日）における当社グループの連結業績については、売上高は、国内・海外建築事業における大型工事の進捗等により、前年同四半期比771億円（18.8%）増の4,874億円となった。一方、損益の面では、過年度に受注した不採算工事の進捗に伴い当社の国内建築事業において工事粗利益率が悪化したことや、ベースアップによる人件費の増加やデジタル関連投資の加速等により販売費及び一般管理費が増加したことなどから、営業利益は前年同四半期比42億円（50.6%）減の41億円、経常利益は前年同四半期比36億円（28.3%）減の93億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比46億円（41.6%）減の65億円となった。

セグメント情報

| | |
|----------|--|
| （国内建築事業） | 売上高は前年同四半期比491億円（22.2%）増の2,708億円、営業損益は34億円の損失（前年同四半期は3億円の利益）となった。 |
| （海外建築事業） | 売上高は前年同四半期比260億円（37.5%）増の953億円、営業利益は前年同四半期比17億円（286.9%）増の23億円となった。 |
| （国内土木事業） | 売上高は前年同四半期比78億円（10.5%）増の825億円、営業利益は前年同四半期比12億円（57.0%）増の34億円となった。 |
| （海外土木事業） | 売上高は前年同四半期比20億円（9.9%）減の189億円、営業損益は1億円の損失（前年同四半期は14億円の利益）となった。 |
| （不動産事業） | 売上高は前年同四半期比33億円（30.5%）減の75億円、営業利益は前年同四半期比14億円（48.3%）減の15億円となった。 |
| （その他） | 売上高は前年同四半期比5億円（4.1%）減の120億円、営業利益は前年同四半期比3億円（41.7%）減の4億円となった。 |

※ セグメント情報の詳細は、第4 経理の状況 を参照

(2) 財政状態

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比908億円（3.5%）増の2兆7,008億円となった。これは、「現金預金」が減少した一方で、事業用不動産の取得等により「建設仮勘定」が増加したことや政策保有株式の時価の上昇により「投資有価証券」が増加したことなどによるものである。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末比604億円（3.8%）増の1兆6,345億円となった。これは、「短期借入金」や「長期借入金」などの有利子負債や「未成工事受入金」が増加したことなどによるものであり、有利子負債残高は前連結会計年度末比258億円（7.7%）増の3,638億円となった。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末比304億円（2.9%）増の1兆662億円となった。これは、剰余金の配当により「利益剰余金」が減少した一方で、「その他有価証券評価差額金」が増加したことなどによるものである。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は38.0%となり、前連結会計年度末より0.2ポイント低下した。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について重要な変更はない。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はない。

(5) 研究開発活動

当社グループの当第1四半期連結累計期間における研究開発に要した費用の総額は、39億円である。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

| 種 類 | 発行可能株式総数 (株) |
|------|---------------|
| 普通株式 | 1,224,335,000 |
| 計 | 1,224,335,000 |

②【発行済株式】

| 種 類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数 (株) (2023年6月30日) | 提出日現在発行数 (株) (2023年8月8日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内 容 |
|------|---|-----------------------------|------------------------------------|---|
| 普通株式 | 721,509,646 | 721,509,646 | 東京証券取引所 (プライム市場) 福岡証券取引所 | 権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株である。 |
| 計 | 721,509,646 | 721,509,646 | — | — |

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年 月 日 | 発行済株式総数 | | 資 本 金 | | 資本準備金 | | 摘 要 |
|--------------------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----|
| | 増減数 (千株) | 残 高 (千株) | 増減額 (百万円) | 残 高 (百万円) | 増減額 (百万円) | 残 高 (百万円) | |
| 2023年4月1日～ 2023年6月30日 | — | 721,509 | — | 57,752 | — | 41,694 | — |

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしている。

① 【発行済株式】

2023年3月31日現在

| 区 分 | 株式数 (株) | 議決権の数 (個) | 内 容 |
|-----------------|----------------------------|-----------|----------------------|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式 (自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式 (その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式 (自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 3,468,400 | — | — |
| 完全議決権株式 (その他) | 普通株式 717,569,500 | 7,175,695 | — |
| 単元未満株式 | 普通株式 471,746 | — | 一単元 (100株) 未満 の株式 |
| 発行済株式総数 | 721,509,646 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 7,175,695 | — |

(注) 1 「完全議決権株式 (その他)」には、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式1,000株 (議決権10個) 及び役員報酬B I P信託が所有する株式1,093,200株 (議決権10,932個) が含まれている。

2 「単元未満株式」には、自己保有株式99株及び役員報酬B I P信託が所有する株式78株が含まれている。

② 【自己株式等】

2023年3月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有 株式数 (株) | 他人名義所有 株式数 (株) | 所有株式数の 合計 (株) | 発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%) |
|---------------------|---------------------|-------------------|-------------------|------------------|---------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社大林組 | 東京都港区港南 2丁目15番2号 | 3,468,400 | — | 3,468,400 | 0.48 |
| 計 | — | 3,468,400 | — | 3,468,400 | 0.48 |

(注) 株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式1,000株 (議決権10個) 及び役員報酬B I P信託が所有する株式1,093,278株 (議決権10,932個) は、上記自己保有株式には含まれていない。

2 【役員 の 状況】

該当事項なし。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日) |
|--------------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 419,405 | 400,109 |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 832,939 | 828,633 |
| 電子記録債権 | 21,189 | 28,320 |
| 有価証券 | 7,285 | 7,963 |
| 販売用不動産 | 15,874 | 18,428 |
| 未成工事支出金 | 35,428 | 41,712 |
| 不動産事業支出金 | 30,405 | 30,662 |
| PFI等棚卸資産 | 6,610 | 6,104 |
| その他の棚卸資産 | 12,120 | 13,242 |
| 未収入金 | 98,866 | 91,940 |
| その他 | 25,572 | 46,660 |
| 貸倒引当金 | △147 | △151 |
| 流動資産合計 | 1,505,551 | 1,513,626 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物・構築物（純額） | 142,968 | 146,228 |
| 機械、運搬具及び工具器具備品（純額） | 79,252 | 73,972 |
| 土地 | 408,031 | 409,205 |
| リース資産（純額） | 4,823 | 5,117 |
| 建設仮勘定 | 57,470 | 68,263 |
| 有形固定資産合計 | 692,545 | 702,786 |
| 無形固定資産 | 17,932 | 18,581 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 306,570 | 352,644 |
| 長期貸付金 | 1,312 | 1,385 |
| 繰延税金資産 | 5,137 | 2,256 |
| 退職給付に係る資産 | 2,900 | 2,694 |
| その他 | 78,148 | 107,013 |
| 貸倒引当金 | △170 | △170 |
| 投資その他の資産合計 | 393,899 | 465,824 |
| 固定資産合計 | 1,104,377 | 1,187,192 |
| 資産合計 | 2,609,929 | 2,700,819 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日) |
|-------------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金等 | 526,734 | 511,653 |
| 電子記録債務 | 145,520 | 158,274 |
| 短期借入金 | 67,170 | 84,362 |
| 1年内返済予定のノンリコース借入金 | ※2 8,611 | ※2 10,280 |
| 1年内償還予定の社債 | 20,000 | 20,000 |
| リース債務 | 1,425 | 1,941 |
| 未払法人税等 | 22,375 | 4,822 |
| 未成工事受入金 | 132,979 | 168,351 |
| 預り金 | 158,487 | 165,207 |
| 完成工事補償引当金 | 3,004 | 3,042 |
| 工事損失引当金 | 43,205 | 38,721 |
| その他 | 96,919 | 102,613 |
| 流動負債合計 | 1,226,434 | 1,269,272 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 50,000 | 40,000 |
| 長期借入金 | 124,051 | 143,107 |
| ノンリコース借入金 | ※2 68,087 | ※2 66,062 |
| リース債務 | 5,018 | 4,941 |
| 繰延税金負債 | 4,053 | 13,971 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 18,421 | 18,421 |
| 役員株式給付引当金 | 599 | 589 |
| 環境対策引当金 | 23 | 23 |
| 退職給付に係る負債 | 51,835 | 52,088 |
| その他 | 25,522 | 26,050 |
| 固定負債合計 | 347,613 | 365,256 |
| 負債合計 | 1,574,048 | 1,634,529 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 57,752 | 57,752 |
| 資本剰余金 | 41,962 | 41,962 |
| 利益剰余金 | 728,087 | 719,600 |
| 自己株式 | △2,754 | △2,860 |
| 株主資本合計 | 825,047 | 816,454 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 118,057 | 150,202 |
| 繰延ヘッジ損益 | 10,130 | 12,208 |
| 土地再評価差額金 | 23,627 | 23,627 |
| 為替換算調整勘定 | 18,437 | 22,333 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 1,808 | 1,688 |
| その他の包括利益累計額合計 | 172,061 | 210,060 |
| 非支配株主持分 | 38,772 | 39,774 |
| 純資産合計 | 1,035,881 | 1,066,290 |
| 負債純資産合計 | 2,609,929 | 2,700,819 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | | |
| 完成工事高 | 386,847 | 467,789 |
| 不動産事業等売上高 | 23,484 | 19,654 |
| 売上高合計 | 410,331 | 487,444 |
| 売上原価 | | |
| 完成工事原価 | 355,563 | 435,335 |
| 不動産事業等売上原価 | 17,289 | 15,078 |
| 売上原価合計 | 372,852 | 450,414 |
| 売上総利益 | | |
| 完成工事総利益 | 31,284 | 32,453 |
| 不動産事業等総利益 | 6,194 | 4,576 |
| 売上総利益合計 | 37,478 | 37,030 |
| 販売費及び一般管理費 | 29,043 | 32,863 |
| 営業利益 | 8,434 | 4,167 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 146 | 645 |
| 受取配当金 | 2,770 | 2,865 |
| 為替差益 | 2,201 | 2,145 |
| その他 | 200 | 126 |
| 営業外収益合計 | 5,319 | 5,782 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 510 | 498 |
| その他 | 251 | 134 |
| 営業外費用合計 | 761 | 633 |
| 経常利益 | 12,992 | 9,315 |
| 特別利益 | 3,361 | 329 |
| 特別損失 | 480 | 573 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 15,873 | 9,071 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 6,504 | 4,063 |
| 法人税等調整額 | △2,238 | △1,816 |
| 法人税等合計 | 4,265 | 2,247 |
| 四半期純利益 | 11,608 | 6,824 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 328 | 232 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 11,279 | 6,591 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 四半期純利益 | 11,608 | 6,824 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,585 | 32,137 |
| 繰延ヘッジ損益 | 1,952 | 2,193 |
| 為替換算調整勘定 | 8,001 | 4,774 |
| 退職給付に係る調整額 | △175 | △119 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 386 | △93 |
| その他の包括利益合計 | 11,750 | 38,891 |
| 四半期包括利益 | 23,358 | 45,715 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 20,832 | 44,591 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 2,526 | 1,124 |

【注記事項】

(追加情報)

(取締役及び執行役員に対する業績連動型株式報酬制度)

1 取引の概要

当社は、取締役及び執行役員（社外取締役及び海外居住者を除く。以下「取締役等」という。）へのインセンティブプランとして、2015年度から業績連動型株式報酬制度（以下「本制度」という。）を導入している。本制度は当社の中長期的な業績の向上と企業価値・株主価値の増大への貢献意識を高めることを目的とした、会社業績との連動性が高く、かつ透明性及び客観性の高い報酬制度である。

具体的には、役員報酬B I P（Board Incentive Plan）信託と称される仕組みを採用し、あらかじめ役員報酬B I P信託により取得した当社株式を各連結会計年度の業績目標の達成度等に応じて当社取締役等に交付する。

2 信託に残存する当社株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上している。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末1,057百万円及び1,093,278株、当第1四半期連結会計期間末1,057百万円及び1,093,278株である。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

下記の借入金について保証を行っている。

| 前連結会計年度 (2023年3月31日) | | 当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日) | |
|-------------------------|-----------|------------------------------|-------|
| 大林プロパティズUK (注) | 12,582百万円 | 従業員住宅購入借入金 | 11百万円 |
| 従業員住宅購入借入金 | 13 | | |
| 計 | 12,596 | 計 | 11 |

(注) 決算日が連結決算日と異なる連結子会社が、その決算日後、連結決算日までの期間に行った借入に対する保証である。

※2 「1年内返済予定のノンリコース借入金」及び「ノンリコース借入金」は、連結子会社でPFI事業又は再生可能エネルギー事業における特別目的会社が、当該PFI事業又は再生可能エネルギー事業を担保とするノンリコースローンとして金融機関等から調達した借入金である。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりである。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|---------|---|---|
| 減価償却費 | 5,511百万円 | 6,184百万円 |
| のれんの償却額 | 80 | 183 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|-------|
| 2022年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 11,488 | 16 | 2022年 3月31日 | 2022年 6月24日 | 利益剰余金 |

(注) 2022年6月23日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金18百万円が含まれている。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|-------|
| 2023年6月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 15,078 | 21 | 2023年 3月31日 | 2023年 6月29日 | 利益剰余金 |

(注) 2023年6月28日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金22百万円が含まれている。

(セグメント情報)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注1) | 合 計 |
|--------------------------|------------|------------|------------|------------|--------|---------|-------------|---------|
| | 国 内 建 築 | 海 外 建 築 | 国 内 土 木 | 海 外 土 木 | 不動産 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 221,690 | 69,377 | 74,757 | 21,022 | 10,891 | 397,739 | 12,592 | 410,331 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | 8,448 | 19 | 3,418 | — | 288 | 12,175 | 2,645 | 14,820 |
| セグメント売上高 | 230,138 | 69,396 | 78,176 | 21,022 | 11,180 | 409,914 | 15,237 | 425,151 |
| 営業利益 | | | | | | | | |
| 外部顧客売上高に対応する 営業利益（注2） | 330 | 599 | 2,203 | 1,491 | 3,001 | 7,627 | 807 | 8,434 |
| セグメント間の 内部営業利益又は振替高 | 236 | — | 30 | — | 31 | 299 | △22 | 277 |
| セグメント利益 | 567 | 599 | 2,234 | 1,491 | 3,033 | 7,926 | 785 | 8,712 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PFI事業、再生可能エネルギー事業及び金融事業等を含んでいる。

2 「外部顧客売上高に対応する営業利益」は、「セグメント利益」から「セグメント間の内部営業利益又は振替高」を控除した金額であり、「外部顧客売上高に対応する営業利益」の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注1) | 合 計 |
|---------------------------------------|------------|------------|------------|------------|-------|---------|-------------|---------|
| | 国 内 建 築 | 海 外 建 築 | 国 内 土 木 | 海 外 土 木 | 不動産 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 270,876 | 95,385 | 82,583 | 18,944 | 7,572 | 475,362 | 12,082 | 487,444 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | 9,504 | 18 | 3,523 | — | 231 | 13,277 | 2,961 | 16,239 |
| セグメント売上高 | 280,380 | 95,403 | 86,107 | 18,944 | 7,803 | 488,639 | 15,044 | 503,683 |
| 営業利益又は営業損失 | | | | | | | | |
| 外部顧客売上高に対応する 営業利益又は営業損失（△） （注2） | △3,475 | 2,320 | 3,459 | △159 | 1,551 | 3,696 | 470 | 4,167 |
| セグメント間の 内部営業利益又は振替高 | 548 | △42 | △36 | — | △14 | 454 | △7 | 447 |
| セグメント利益又は損失(△) | △2,926 | 2,277 | 3,422 | △159 | 1,537 | 4,150 | 463 | 4,614 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PFI事業、再生可能エネルギー事業及び金融事業等を含んでいる。

2 「外部顧客売上高に対応する営業利益又は営業損失」は、「セグメント利益又は損失」から「セグメント間の内部営業利益又は振替高」を控除した金額であり、「外部顧客売上高に対応する営業利益又は営業損失」の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

| 利 益 | 前第1四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年6月30日） | 当第1四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年6月30日） |
|-----------------|---|---|
| 報告セグメント計 | 7,926 | 4,150 |
| 「その他」の区分の利益 | 785 | 463 |
| セグメント間取引消去 | △277 | △447 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 8,434 | 4,167 |

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | | | | その他 （注2） | 合 計 |
|---------------|------------|------------|------------|------------|--------|---------|-------------|---------|
| | 国 内 建 築 | 海 外 建 築 | 国 内 土 木 | 海 外 土 木 | 不動産 | 計 | | |
| 主たる地域別 | | | | | | | | |
| 日本 | 221,690 | — | 74,757 | — | 4,052 | 300,499 | 11,662 | 312,162 |
| 北米 | — | 37,093 | — | 13,944 | — | 51,038 | — | 51,038 |
| アジア | — | 31,758 | — | 7,078 | — | 38,836 | — | 38,836 |
| その他 | — | 525 | — | — | — | 525 | 28 | 554 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 221,690 | 69,377 | 74,757 | 21,022 | 4,052 | 390,899 | 11,691 | 402,591 |
| その他の収益（注3） | — | — | — | — | 6,839 | 6,839 | 900 | 7,740 |
| 外部顧客への売上高 | 221,690 | 69,377 | 74,757 | 21,022 | 10,891 | 397,739 | 12,592 | 410,331 |

（注）1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PFI事業、再生可能エネルギー事業及び金融事業等を含んでいる。

3 不動産セグメントのその他の収益6,839百万円は、不動産賃貸事業の売上高である。

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | | | | その他 （注2） | 合 計 |
|---------------|------------|------------|------------|------------|-------|---------|-------------|---------|
| | 国 内 建 築 | 海 外 建 築 | 国 内 土 木 | 海 外 土 木 | 不動産 | 計 | | |
| 主たる地域別 | | | | | | | | |
| 日本 | 270,798 | — | 82,583 | — | 991 | 354,372 | 11,260 | 365,633 |
| 北米 | 52 | 59,068 | — | 16,224 | — | 75,344 | — | 75,344 |
| アジア | 25 | 35,586 | — | 2,719 | — | 38,332 | — | 38,332 |
| その他 | — | 730 | — | — | — | 730 | 17 | 747 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 270,876 | 95,385 | 82,583 | 18,944 | 991 | 468,780 | 11,277 | 480,058 |
| その他の収益（注3） | — | — | — | — | 6,581 | 6,581 | 804 | 7,385 |
| 外部顧客への売上高 | 270,876 | 95,385 | 82,583 | 18,944 | 7,572 | 475,362 | 12,082 | 487,444 |

（注）1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、PFI事業、再生可能エネルギー事業及び金融事業等を含んでいる。

3 不動産セグメントのその他の収益6,581百万円は、不動産賃貸事業の売上高である。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|-----------------------------------|---|---|
| 1 株当たり四半期純利益 | 15円73銭 | 9 円19銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円) | 11,279 | 6,591 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益 (百万円) | 11,279 | 6,591 |
| 普通株式の期中平均株式数 (千株) | 716,895 | 716,899 |

(注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 役員報酬 B I P 信託が所有する当社株式を、1 株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めている。当該自己株式の期中平均株式数は前第 1 四半期連結累計期間 4,613 千株、当第 1 四半期連結累計期間 4,610 千株であり、このうち役員報酬 B I P 信託が所有する当社株式の期中平均株式数は前第 1 四半期連結累計期間 1,148 千株、当第 1 四半期連結累計期間 1,093 千株である。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月8日

株式会社 大林組

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人 東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 陽子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 剛

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大林組の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大林組及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施され

る年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。
2 XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。